

体育会学生の就職活動調査

2016年8月発行

選考解禁の前倒しにより、学業と部活動そして就職活動の3つの両立を迫られた体育会学生。大学体育会と親密な関係を築いている株式会社大学スポーツチャンネルの協力のもと、体育会学生の就職意識や就職活動状況に関する調査を行った。体育会に所属していない一般学生の同時期調査結果や前年の体育会学生の調査結果と比較しながら、活動量（社数）や内定状況、そして体育会学生の行動や考え方について考察したい。

■体育会学生と一般学生の比較

1. 就職活動について P2
 - [1] 就職活動量
 - [2] OB・OG訪問
2. 内定状況 P3
 - [1] 内定率
 - [2] 就職決定企業の従業員数、株式上場の有無
 - [3] 就職決定企業に決めた理由

■体育会学生への調査結果

3. 体育会学生の就職活動 P6
 - [1] 就職活動開始時期
 - [2] 選考解禁前倒しの影響
 - [3] 就職活動の難易度
 - [4] リクルーターとの接触
 - [5] 就職活動への周囲の理解
 - [6] 部活関係者からの就職支援
 - [7] 企業の部活訪問
4. 体育会のメリットとデメリット P10
 - [1] 体育会に入っていたことで就職に有利／不利だと思うこと
 - [2] 部活（体育会）を通して身についたもの

《調査概要》

- 体育会学生** 体育会学生「大学スポーツチャンネル」CSParkCareer 登録学生
 - 調査対象：2017年3月卒業予定の大学体育会所属学生
 - 回答者数：283人
 - 調査方法：インターネット調査法
 - 調査期間：2016年6月14日～19日
- 一般学生** 2017年度 キャリタス就活 学生モニター
 - 調査対象：2017年3月卒業予定のモニターのうち、体育会所属学生を除く
 - 回答者数：1,021人
 - 調査方法：インターネット調査法
 - 調査期間：2016年6月1日～5日（内定率は6月15日に再調査）

◆本資料に関するお問い合わせ先：03-4316-5505／株式会社ディスコ キャリタスリサーチ

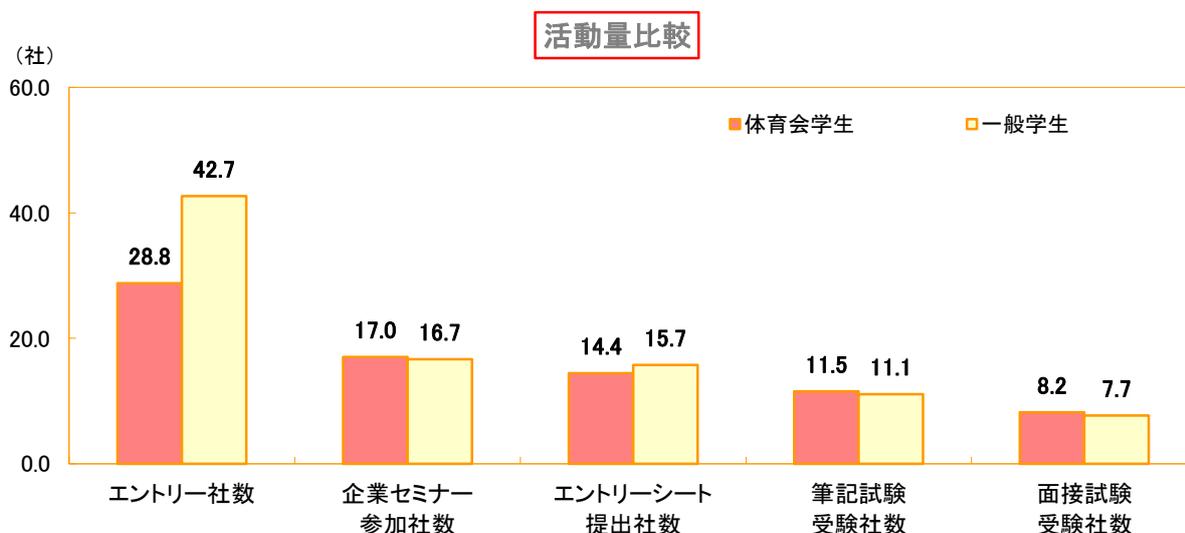
■体育会学生と一般学生の比較

1. 就職活動について

[1] 就職活動量

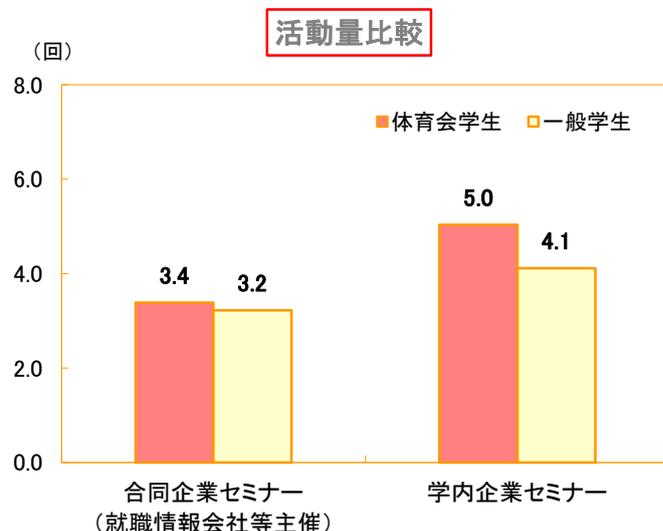
就職活動の量（社数）を、「体育会学生」と体育会ではない「一般学生」とで比較した（それぞれ6月時点の社数）。

両者に大きな差が見られたのはエントリー社数で、一般学生が42.7社であるのに対し、体育会学生は28.8社。体育会学生の方が13.9社少なく、一般学生の約7割にとどまる。一方、企業セミナーや選考試験などエントリー以降の活動については、両者に大きな差は見られない。体育会学生は就職活動の入り口で一般の学生よりも企業を絞る傾向があると言えそうだ。



就職情報会社等の主催する「合同企業セミナー」と、大学内で行われる「学内企業セミナー」への参加回数について比較した。合同企業セミナーは体育会学生が平均3.4回、一般学生が3.2回とほとんど差は見られない。

一方、学内企業セミナーにおいては差が見られ、一般学生は平均4.1回であるのに対し、体育会学生は5.0回。体育会学生は学業と部活動の両方を行うため、授業の合間に参加できる学内セミナーに足を運ぶ機会が多いと考えられる。

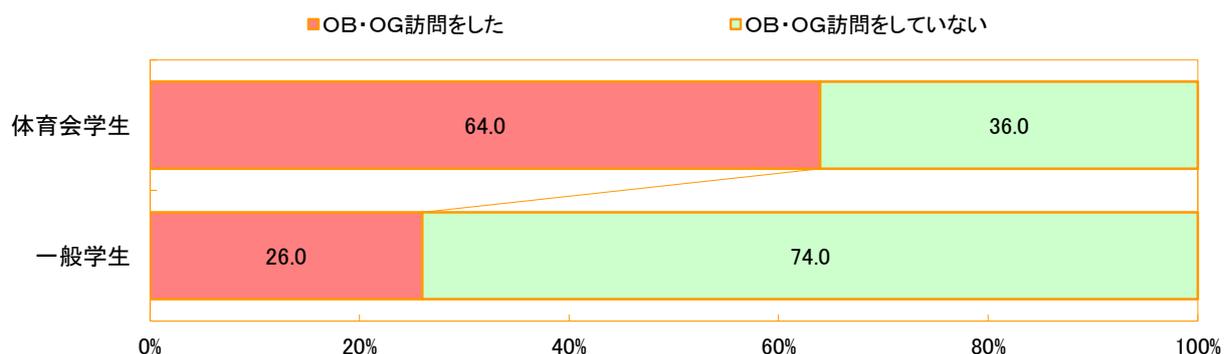


[2] OB・OG訪問

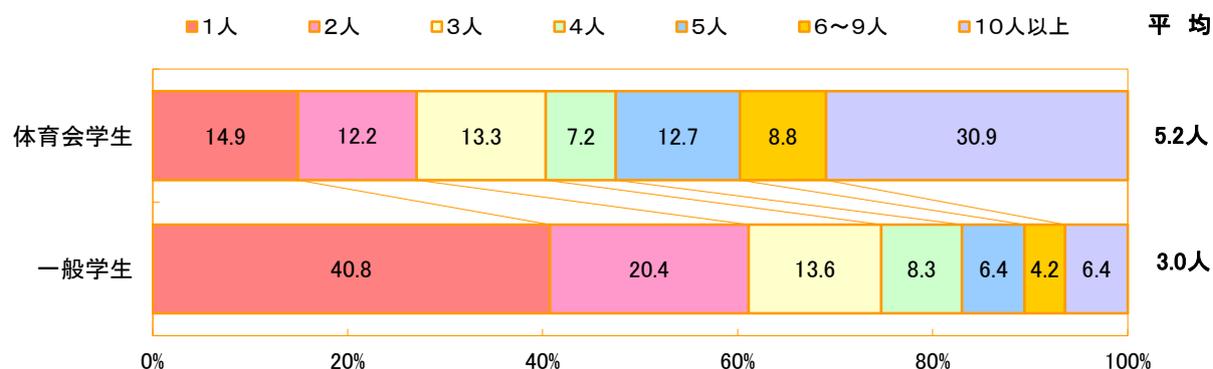
学生側から個人的に約束をとって行う自主的な「OB・OG訪問」について経験有無を尋ねたところ、体育会学生は6割を超え（64.0%）、一般学生（26.0%）の2倍以上に上った。体育会学生にとって、OB・OG訪問は、就職活動をする上で重要な活動の一つとなっていることが分かる。

OB・OG訪問の人数についても体育会学生の方が多く、一般学生は平均3.0人であるのに対し、体育会学生は平均5.2人を訪問。また、体育会学生の中には10人以上を訪問したという学生が3割（30.9%）にも上る。

OB・OG訪問の経験



OB・OG訪問をした人数

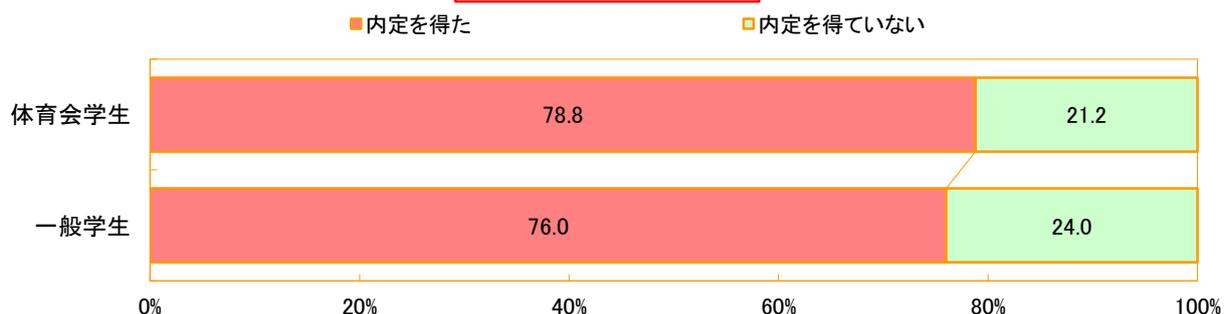


2. 内定状況

[1] 内定率

6月中旬時点の内定率を比較した。体育会学生は78.8%で、一般学生の内定率（76.0%）よりも2.8ポイント高い。僅差ではあるが、体育会学生の方が内定を得ている割合が高いことが分かる。

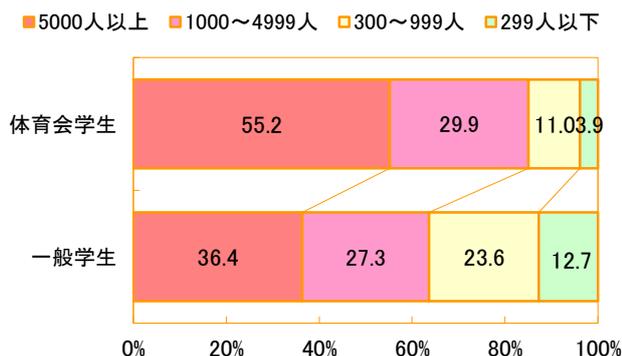
6月中旬の内定の有無



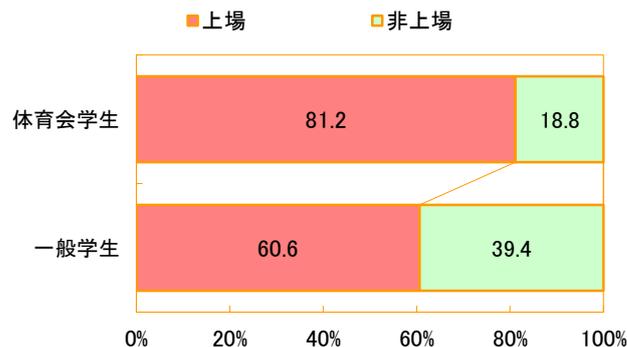
[2] 就職決定企業の従業員数、株式上場の有無

6月の調査時点で就職先を決定していた学生に決定企業の規模を尋ねたところ、体育会学生の55.2%が「従業員数5000人以上」と回答し、一般学生（36.4%）より18.8ポイント高かった。また、上場企業の比率も体育会学生の方が高く、体育会学生が81.2%だった一方で、一般学生は60.6%だった。体育会学生は、大手上場企業に多く決定していることが分かる。

就職決定企業の従業員数



就職決定企業の株式上場の有無



■就職活動に関して思うこと

○体育会が有利とはいいますが、目指す企業の競争率が高かったり、学力重視の場合は選考通過のための試験に合格しなければならないため、しっかり就職活動対策の勉強をする必要があると感じた。
 <文系女子 ラクロス部>

○前もって準備を行おうと思っていたが、部活との兼ね合いや要領を把握できていなかった等なかなかできなかった。そこができていたら、進め方も変わっていたかもしれない。
 <文系男子 硬式野球部>

○部活との両立が難しく、優先順位をつけてやるのが大事だと思った。
 <文系女子 バレーボール部>

○春のリーグ戦に向けての期間で就活をあまり進められていなかったのが、今現在焦りの思いが出てきている。そのなかで気持ちを静めつつ就職活動中。
 <文系男子 ゴルフ部>

○Uターン希望で就職活動をしているので、交通費がかかって大変。部活にも満足に行けていないので、チームメイトに迷惑をかけてしまっている。
 <文系女子 バasketボール部>

○もっと企業を知るといより業務を知る機会がほしい。
 <文系男子 サッカー部>

○もっと早めに行えばよかったと後悔をしている。
 <理系男子 準硬式野球部>

○支えてくれる人のありがたさを実感した。チームメイトと協力して情報交換しながら、励まし合い共に活動したことで乗り越えられたと思う。
 <文系女子 サッカー部>

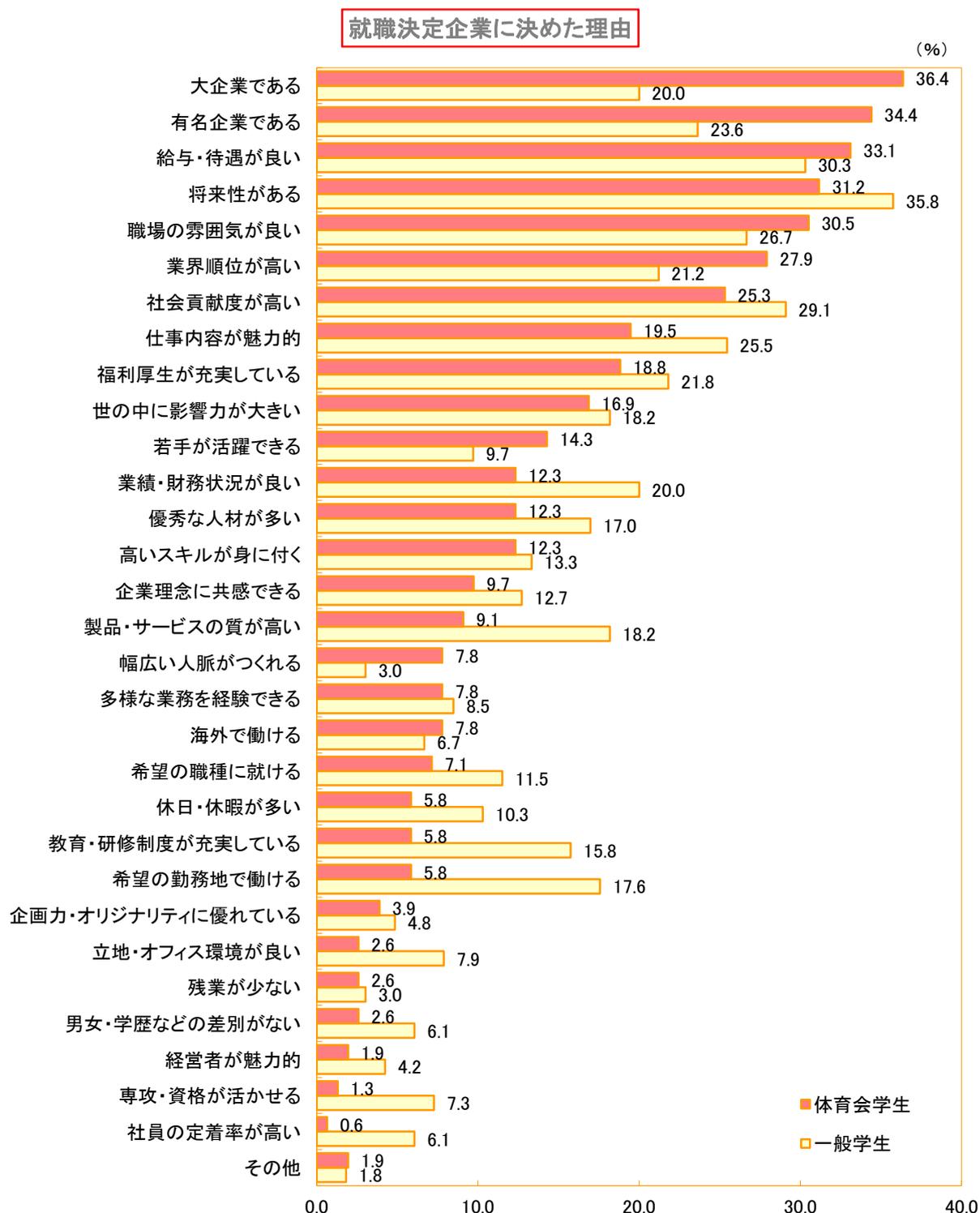
○時間の制約が大きいと感じた。
 <文系男子 サッカー部>

○上手くいくこともいけないこともあり、体力面でも精神面でも疲労が溜まるが多かったが、良い経験をできたなと感じている。
 <理系女子 洋弓部>

[3] 就職決定企業に決めた理由

就職先を決めている学生に、決め手となった理由を尋ねた（選択肢の中から5つまで選択）。体育会学生で最も多かったのは「大企業である」（36.4%）で、一般学生（20.0%）の2倍近くに上る。次に「有名企業である」が34.4%で続き、前ページで確認した、大手上場企業に多く就職先を決定している傾向と一致する。

一方で、「職場の雰囲気が良い」（30.5%）、「若手が活躍できる」（14.3%）は一般学生より高く、早くから力を発揮できる社風を魅力に感じる傾向が強いことがうかがえる。



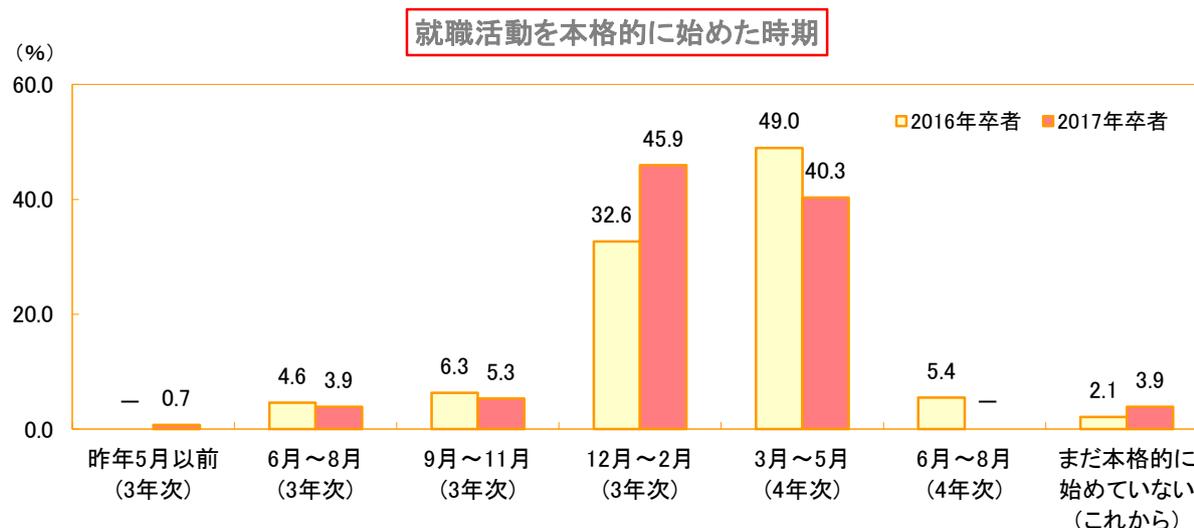
■体育会学生への調査結果

3. 体育会学生の就職活動

[1] 就職活動開始時期

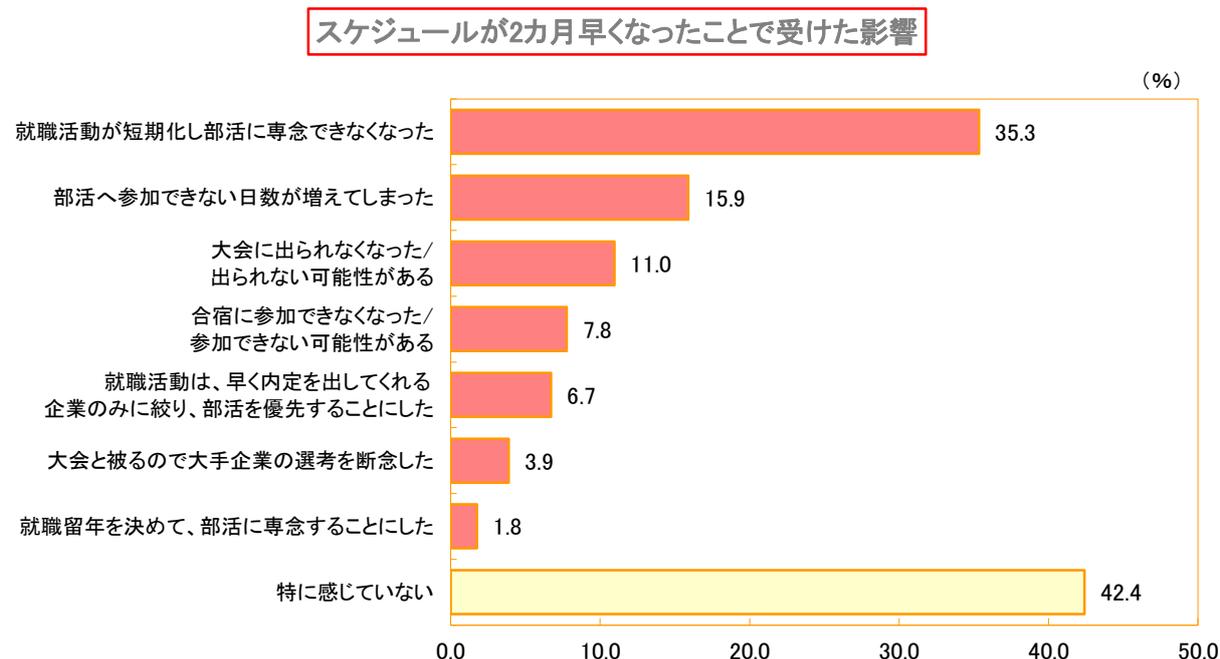
ここからは体育会学生独自の調査結果を紹介する。比較可能なものについては前年調査（8月実施）と比較しながら考察したい。

就職活動を本格的に始めた時期は、「12月～2月」という回答が45.9%で最も多く、「3月～5月」が40.3%で続いた。「12月～2月」において2017年卒者は2016年卒者よりも13.3ポイント高くなっている。また、3月より前に就職活動を本格化させていた層は合計して55.8%となり（2016年卒者43.5%）、体育会学生の動き出しが前年よりも早まったことが分かる。



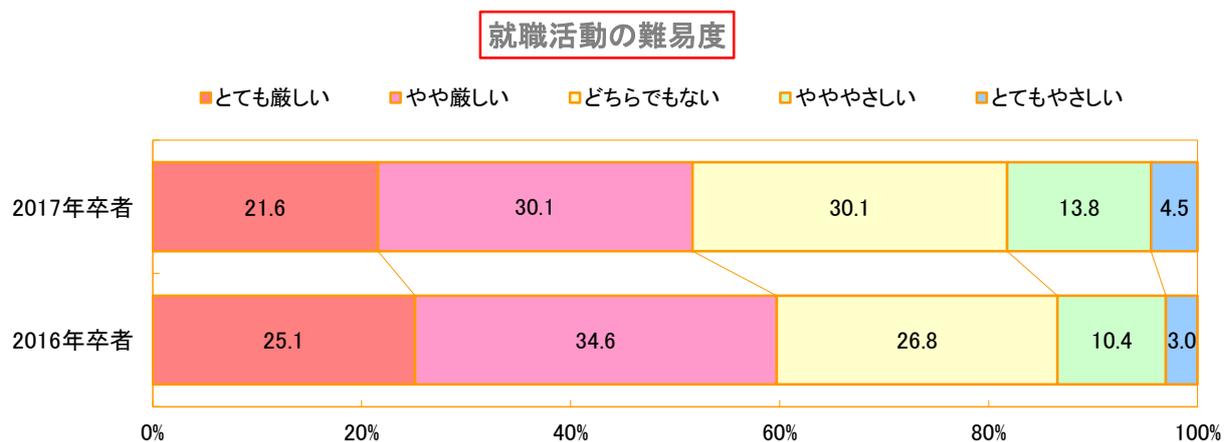
[2] 選考解禁前倒しの影響

選考解禁が8月から6月へと2カ月早まったことで、どのような影響を受けたのかを尋ねた。回答が多かったのは「就職活動が短期化し部活に専念できなくなった」で35.3%。しかし、最も多かったのは「特に感じていない」(42.4%)だった。部活動への影響を受けた学生とそうでない学生に二極化した様子がうかがえる。



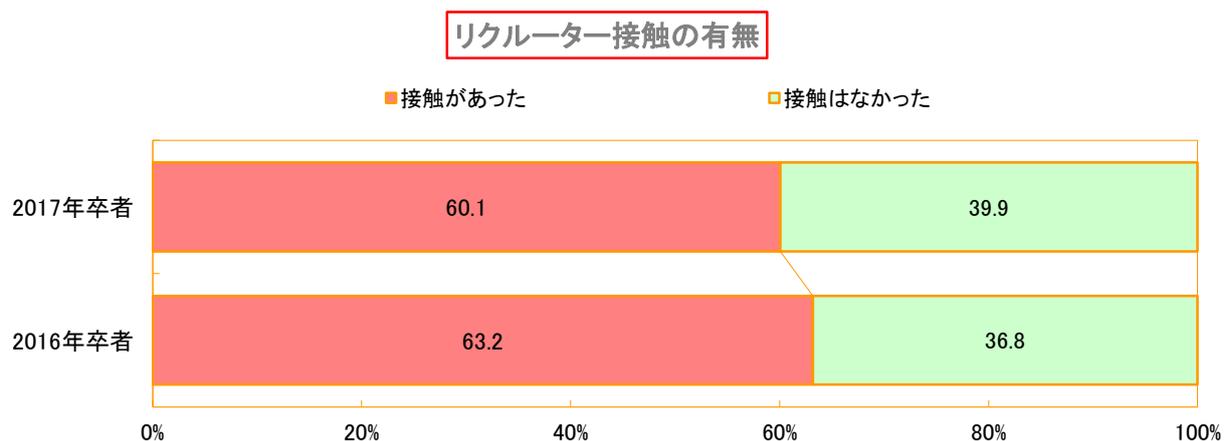
[3] 就職活動の難易度

自身の就職活動を振り返ってもらった。2017年卒において、「とても厳しい」「やや厳しい」と捉えている割合の合計は51.7%であり、「やややさしい」「とてもやさしい」の合計（18.3%）を大きく上回った。しかし、2016年卒での「とても厳しい」「やや厳しい」の合計は59.7%だったので、前年より8ポイント下がった。一方、「やややさしい」「とてもやさしい」の合計は前年（13.4%）よりも4.9ポイント上がり、就職活動の難易度は前年より下がったことが分かる。



[4] リクルーターとの接触

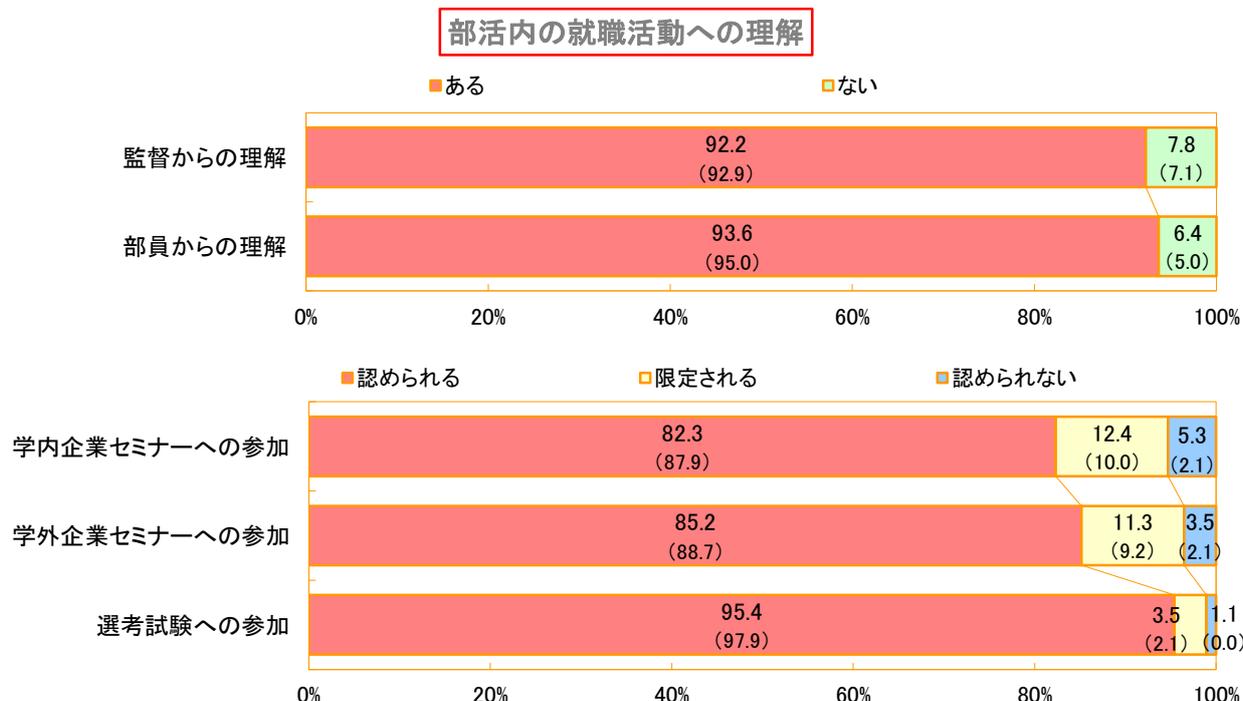
リクルーターから接触を受けた経験の有無を前年と比較した。2017年卒の体育会学生は60.1%が「接触があった」と回答。2016年卒の体育会学生（63.2%）を3.1ポイントとやや下回ったが、依然として6割以上の体育会学生がリクルーターから接触を受けた経験を持つ。



[5] 就職活動への周囲の理解

部活内での就職活動への理解について尋ねた。監督からの理解が「ある」は92.2%で、部員からの理解が「ある」は93.6%だった。前年同様、ともに9割以上が理解があると回答した。

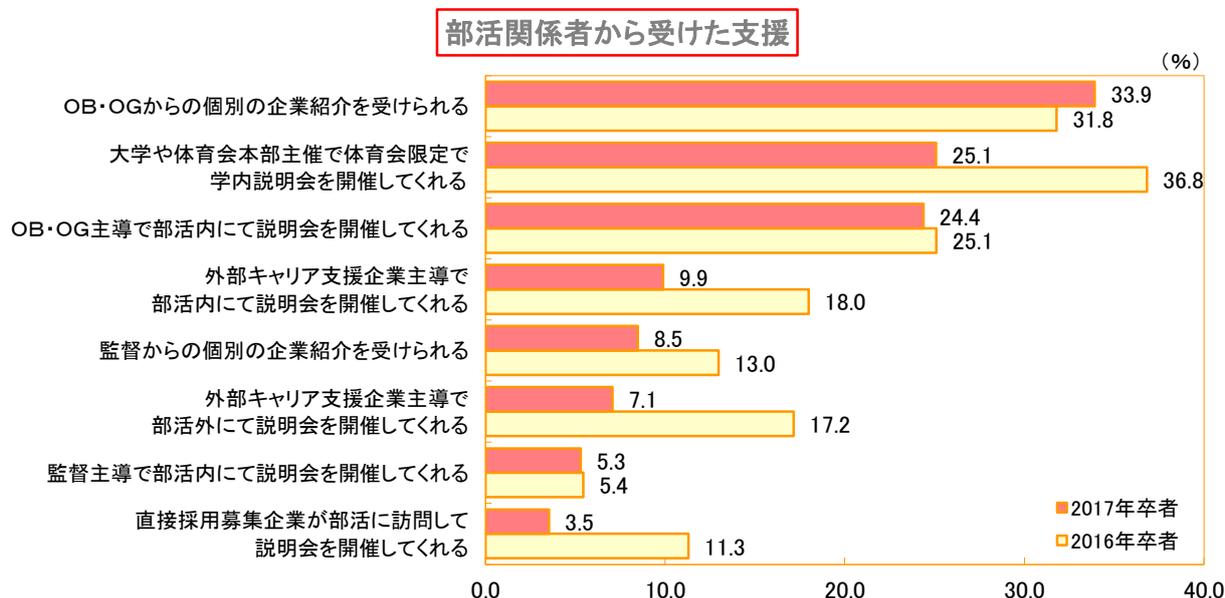
また、部活動のある日に参加することが「認められる」ものとしては、学内企業セミナーが82.3%で、学外企業セミナーが85.2%だった。選考試験への参加に関しては95.4%が「認められる」と回答した。選考試験の方が参加は認められやすいようだ。



※()内は2016年卒者の数値。以下同じ

[6] 部活関係者からの就職支援

部活関係者からの就職支援としては、「OB・OGからの個別の企業紹介を受けられる」(33.9%)が最も多い。「大学や体育会本部主催で体育会限定で学内説明会を開催してくれる」が25.1%で、2番目に多かったが、前年よりも11.7ポイント下がった。全体的に前年よりもポイントが下がり、就職支援が減っている様子が見える。



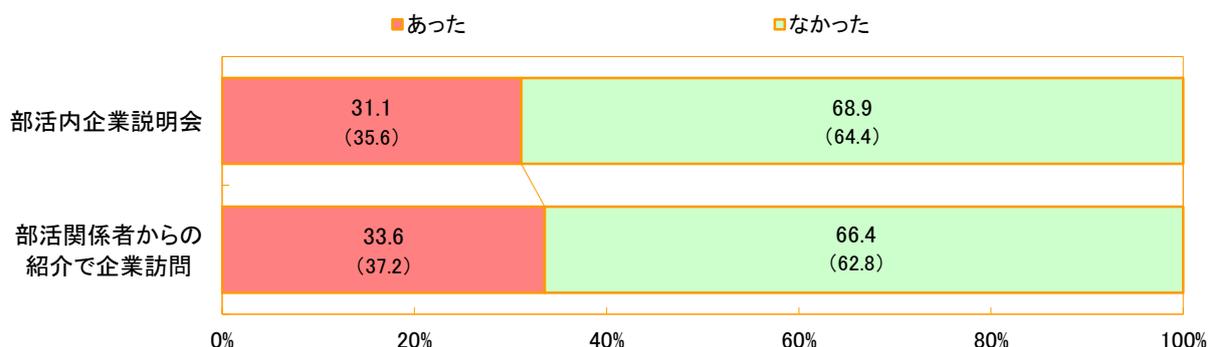
[7] 企業の部活訪問

企業の部活訪問について尋ねたところ、「部活内企業説明会」があったという学生は31.1%、「部活関係者からの紹介で企業訪問」をしたという学生は33.6%で、ともに前年よりも減少している。

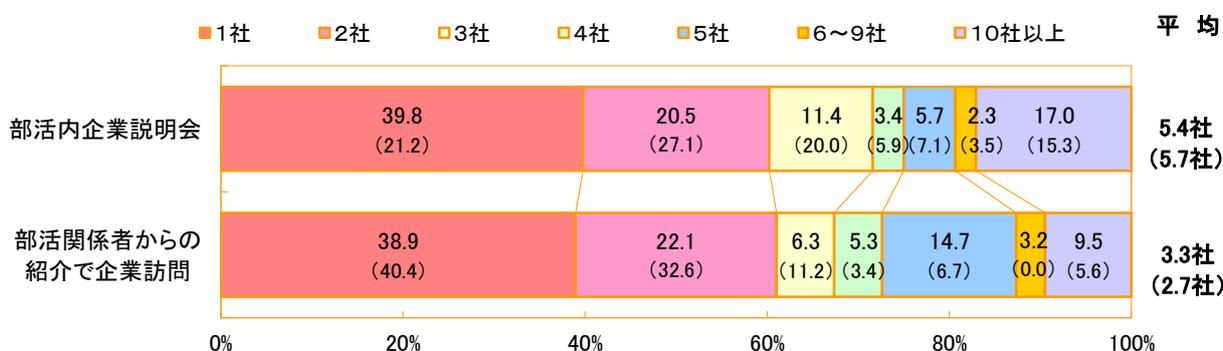
それぞれの社数を確認すると、「部活内企業説明会」が平均5.4社、「部活関係者からの紹介で企業訪問」が平均3.3社だった。

企業からの訪問が最も多かった時期は、企業の採用広報開始後の「3月～5月」（47.0%）で、「12月～2月」（45.3%）が僅差で続いた。前年との差が最も大きいのは「12月～2月」で、2017年卒者の方が9.8ポイント高い。選考前倒しや売り手市場などの影響から、企業の体育会学生に対するアプローチの時期が早まったと考えられる。

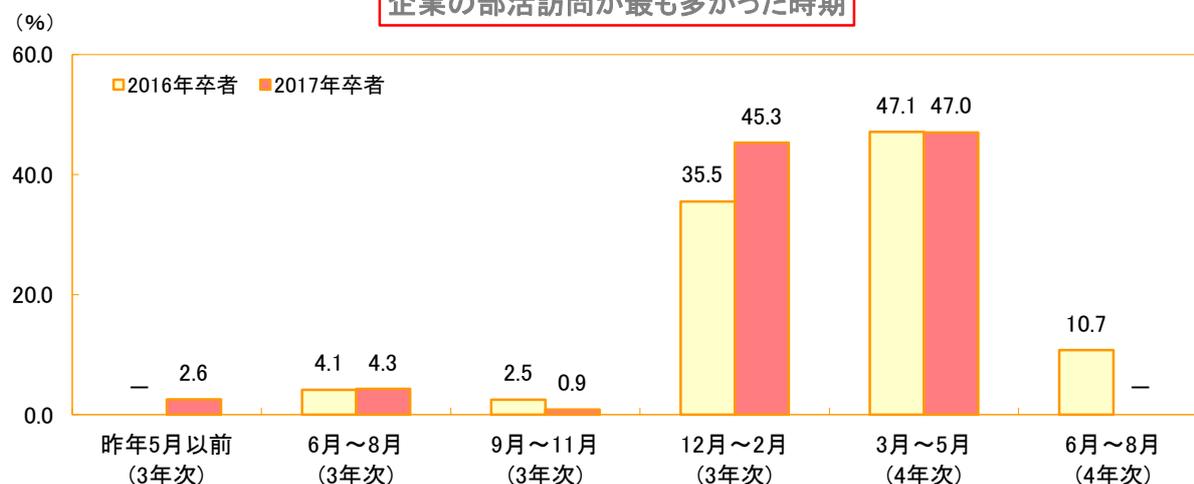
企業の部活訪問など



企業の部活訪問などの社数



企業の部活訪問が最も多かった時期



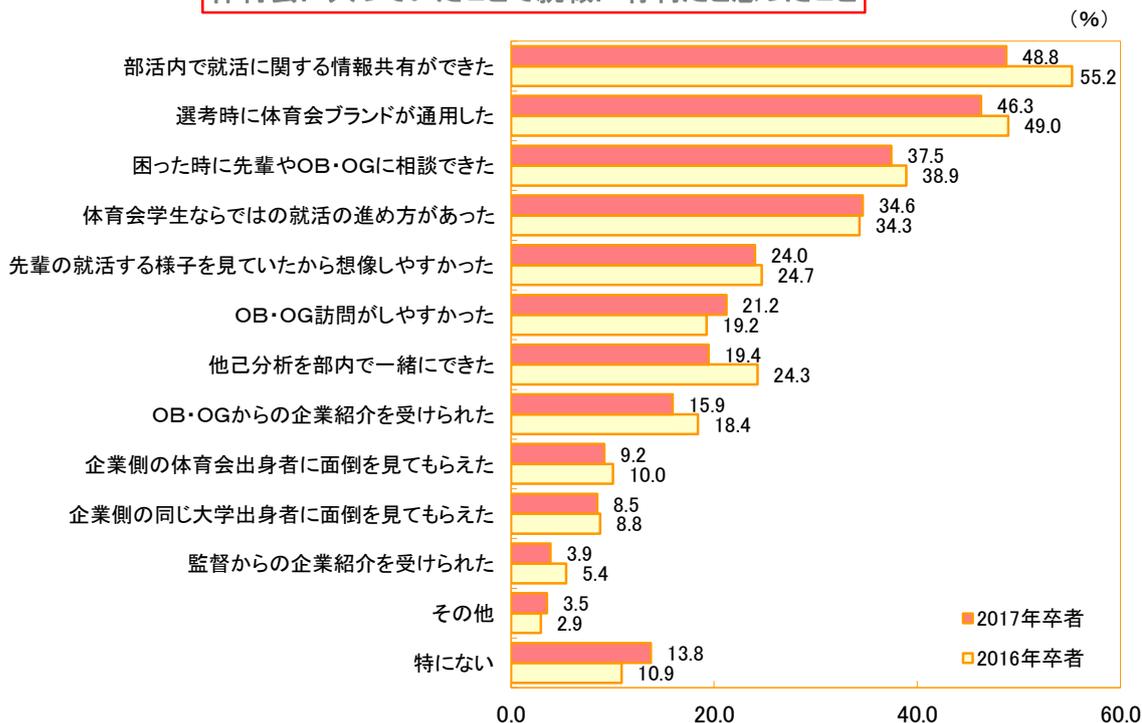
4. 体育会のメリットとデメリット

[1] 体育会に入っていたことで就職に有利／不利だと思うこと

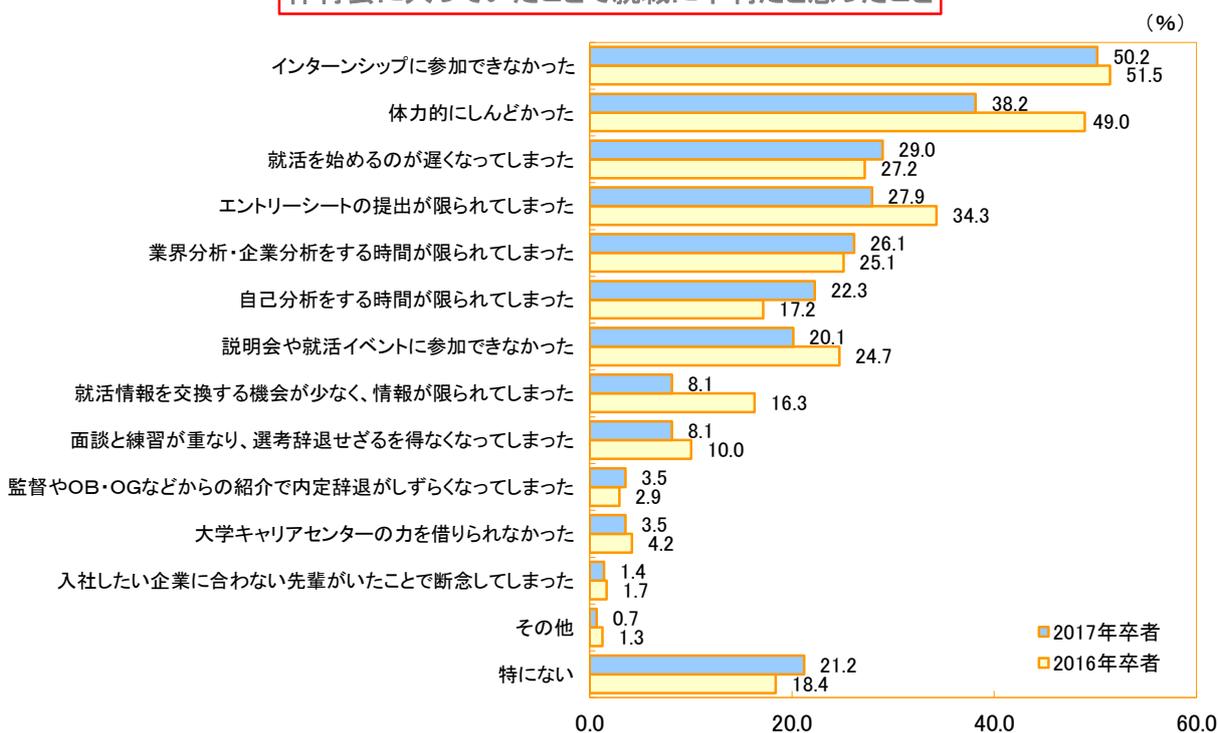
部活（体育会）に入っていたことで就職に有利だと思ったことを尋ねたところ、「部活内で就活に関する情報共有ができた」が48.8%で最も多かった。また、「困った時に先輩やOB・OGに相談できた」が37.5%で上位にあり、部活での繋がりを活かして就職活動を行っていることがうかがえる。

不利だと思ったことについては、「体力的にしんどかった」（38.2%）が前年よりも10.8ポイント減少した。期間短縮で体力的な負担は前年よりも軽減されたようだ。

体育会に入っていたことで就職に有利だと思ったこと



体育会に入っていたことで就職に不利だと思ったこと



[2] 部活（体育会）を通して身についたもの

部活を通して自分が身につけられたと思うものを尋ねた。最も多かったのは「礼儀」（78.1%）で、「コミュニケーション」（77.7%）、「上下関係の理解」（77.4%）が僅差で続いた。一方、回答が少なかったものを見てみると、「ムードメイク」（37.5%）、「分析経験」、「フォロワーシップ」（ともに42.4%）などが挙げられる。

